

2026年 大西洋域におけるハリケーンシーズンの見通し



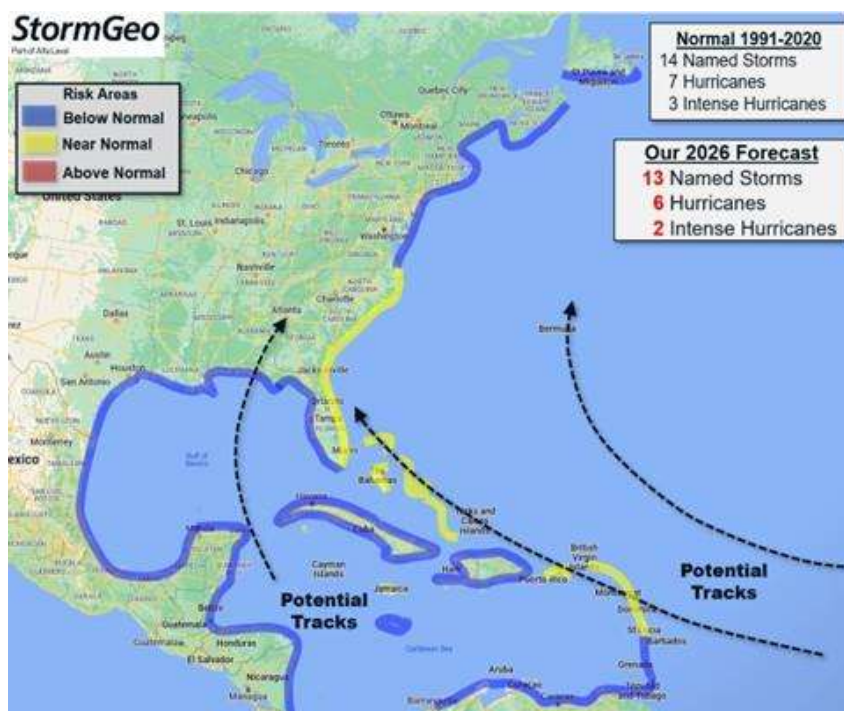
Chris Hebert
Senior Meteorologist,
TropicsWatch Manager

2026年大西洋におけるハリケーンシーズンの予測

El Niñoエルニーニョ現象の再来

大西洋の熱帯低気圧に影響を与える要因：

- ✓ エルニーニョ現象の再来
- ✓ ウインドシアが強まる可能性
- ✓ 過去に類似の現象が発生した年は、カリブ海北西部でハリケーンが発達。



2026年リスク地域

今シーズンの見通し

2026年のハリケーンシーズンの到来は間もなくです。この見通しでは、今シーズンのハリケーンがどのような傾向になるかを見極めるため、いくつかのキーとなる指標について考察します。次回の更新は5月中旬に予定しています。

El Nino エルニーニョ現象 / La Nina ラニーニャ現象

2025年のラニーニャ現象は収束し、今夏までにエルニーニョ状態へ移行すると予想されています。一部の気象モデルでは、比較的強いエルニーニョ現象となる可能性が示されており、太平洋東部の熱帯海域の海面水温が平年より高くなり、この海域での対流活動や熱帯低気圧の活動が活発化するとみられます。この変化により、太平洋海域では大気が不安定になり、上昇気流が発生しやすくハリケーンが増加しやすくなるとみられます。一方で、カリブ海及び大西洋熱帯域では下降気流が発生しやすくなり、熱帯低気圧の発達を抑制する傾向になる可能性があります。その抑制の程度は、8月から9月の最盛期にエルニーニョがどの程度強まるかに左右されます。もしエルニーニョがさらに発達すれば、今シーズンの大西洋域におけるハリケーンの活動は低調になる可能性が高いでしょう。

大西洋の海面水温

カリブ海東方の海域では、冬季に東寄りの貿易風が強まったことから海面水温は平年をやや下回っています。一方、カリブ海全域の海水温は平年よりやや高く、メキシコ湾及び大西洋の亜熱帯域では平年を大幅に上回る高温となっています。このような暖水域と冷水域の分布は、今後のハリケーンシーズンの大気循環パターンを予測する上で重要な指標となります。海水温度の上昇は熱エネルギーの増加につながり、大気の状態が揃うとハリケーンを強く発達させる要因となりえます。現在の大西洋の海面水温パターンは、過去にハリケーンの活動が平年を下回ったシーズンと概ね一致しています。

ウィンドシア

ヨーロッパの長期予報モデルによると、今シーズンのカリブ海および大西洋の熱帯域ではウィンドシア(局地的に風向・風速が急激に変化する現象)が平年より強まる可能性が示されています。これは、ハリケーンシーズンの最盛期に強いエルニーニョ現象が発生する予測と関連しています。カリブ海やその東方海域では、ウィンドシアが強まることによりハリケーンの発達が抑制される見通しです。一方、こうした強いシア条件がメキシコ湾北部まで広がらない場合、メキシコ湾沿岸域は比較的熱帯低気圧が発達しやすい環境となる可能性があります。

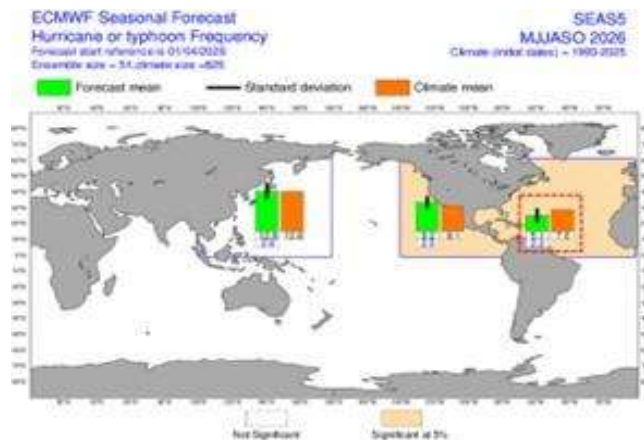
類似年シーズンとの比較

海水温度や大気の状態が現在と類似していた過去の年は、類似年シーズンとして参考になります。現在の熱帯地域の状況が過去の年と類似している場合、熱帯低気圧の発生頻度や進路、全体的な活動パターンも類似する可能性があります。2026年シーズンの予測の指標として、類似年を主要な年（Primary）と二次的な年(Secondary)に分類します。主要な類似年シーズンとの比較では、今シーズンの活動は平年よりやや少なく、命名された熱帯低気圧の総数は約12個、ハリケーンは6～7個、大型ハリケーンは2個程度と予想されます。これらの主要な類似年にはカリブ海北西部での熱帯低気圧の発達が見られたことも特徴で、メキシコ湾におけるハリケーンのリスクが上昇する可能性が示唆されます。

Year	Named Storms (normal = 14)	Hurricanes (normal = 7)	Intense Hurricanes (normal = 3)
1969	18	12	3
2006	10	5	2
2009	9	3	2
2015	11	4	2
2002	12	4	2
2012	19	10	2
2018	15	8	2
2019	18	6	3
Avg. (primary)	12.1	6	2.25
Primary + Secondary	14	6.5	2.25

ヨーロッパの気象モデルにおける予測

ヨーロッパ気象モデルでは、2026年10月までの大西洋海域におけるハリケーンの活動は平年値を下回り、ハリケーンの発生数はわずか5個と予測しています。強いエルニーニョの影響を受ける年には、大西洋のハリケーンシーズンは早めに収束する傾向があり、11月までに終了する場合があります。



当社による5月初旬時点での予測

今年は、中度から強度のエルニーニョ現象が発生することが見込まれるため、熱帯低気圧の発生数は平年並みか、やや平年を下回ることが予想されます。カリブ海から大西洋東部にかけてウインドシアの強まりが予想されることから、熱帯低気圧の活動域は、バハマから米国東沿岸部を含む大西洋亜熱帯域の北側へ移行する可能性があります。同時に、メキシコ湾ではより熱帯低気圧が発達しやすい状況となる可能性があります。その結果、これらの地域における影響は平年をやや上回る可能性があります。

2026年に発生する熱帯低気圧の総数は13個、うちハリケーンは6個、大型ハリケーンは2個と予測されています。これは熱帯低気圧発生総数30個、ハリケーンの発生数7個、大型ハリケーンの発生数3個という過去30年間の平均値を下回る数値です。

最新の荒天関連情報はこちらをご覧ください

[StormGeo.com/weather-intelligence](https://stormgeo.com/weather-intelligence)